

授 業 要 項

令和5年度

科目名	基礎作業学 実習Ⅱ				担当者	水野 準也 濱川 麻美 梅田 雄嗣 藤部 百代			
学 年	2年	学 期	前期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	治療手段として用いる各作業活動の基本的知識・技法を習得し、実践における注意点について理解を深める。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 革細工	・必要な道具、材料を列挙できる。 ・作業工程を理解し、実際に作品を完成できる。 ・作品を完成させるまでの工程を第三者にわかりやすく説明できる。	濱川
	2 共同作品	・必要な道具、材料を列挙できる。 ・作業工程を理解し、実際に作品を完成できる。 ・作品を完成させるまでの工程を第三者にわかりやすく説明できる。	梅田
	3 編み物(かぎ針編み)	・必要な道具、材料を列挙できる。 ・作業工程を理解し、実際に作品を完成できる。 ・作品を完成させるまでの工程を第三者にわかりやすく説明できる。	藤部
	4 七宝焼き	・必要な道具、材料を列挙できる。 ・作業工程を理解し、実際に作品を完成できる。 ・作品を完成させるまでの工程を第三者にわかりやすく説明できる。	梅田
	5 作業分析、まとめ	基礎作業学実習Ⅱで学習する作業活動を通して、作業の治療適応について学ぶ。	水野
授業形態	講義、実技実習、グループワーク		
教科書	なし		
参考書	革の技法 楽しむための基本集 クラフト学園研究室 著 日本ヴォーグ社 適宜紹介		
評価方法	学習後のレポートと作品で評価をする 濱川(47点)、水野(13点)、梅田(27点)、藤部(13点)		
授業時間外の学習	作品制作には道具や材料および手順を確認して臨むこと。授業後には制作のポイントや注意点をまとめておくこと。		
履修上の留意点	革細工において、刃物を扱う上での注意。染料を使うので、対応できる服装で臨むこと。 全ての作業活動において、提出するレポートが自身の作品の内容になるよう理解すること。		
担当者の実務経験	病院で作業療法に従事		

授 業 要 項

令和5年度

科目名	身体障害作業療法評価学				担当者	藤部 百代 平松 敦子			
学 年	2年	学 期	前期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	身体障害を対象とする作業療法を実施するにあたって対象者の状態が把握できるようになるために、基本的な評価の目的、方法を学び、それらを実施できる。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 評価とは	評価を実施する目的を説明することができる	平松 敦子
	2 関節可動域検査について （体幹、上肢、手指、下肢）	関節可動域の説明ができる 関節可動域検査の目的、方法の説明ができる 関節可動域検査を実施し、検査技術が実施できる	平松 敦子 藤部 百代
	3 筋緊張検査について	筋緊張検査の目的、方法、種類の説明と実施ができる	平松 敦子 藤部 百代
	4 徒手筋力検査について （体幹、上肢、手指、下肢）	徒手筋力テストについて説明ができる 徒手筋力テストの目的、方法の説明ができる 徒手筋力テストを実施し、検査技術が実施できる	平松 敦子 藤部 百代
	5 感覚検査について	表在感覚・深部感覚検査の目的、方法、種類の説明と実施ができる	平松 敦子 藤部 百代
	6 協調性運動検査について	協調性検査の目的、方法、種類の説明と実施ができる	平松 敦子
	7 反射検査について	腱反射・病的反射の目的、方法、種類の説明と実施ができる	平松 敦子
	8 姿勢反射、平行反応、バランス検査について	姿勢反射、平衡反応、バランス検査の目的、方法、種類の説明と実施ができる	平松 敦子
	9 上肢機能検査 について （STEF、MFT、握力、ピンチ力）	上肢機能について説明ができる 各上肢機能検査が実施できる	平松 敦子
授業形態	講義、実技実習		
教科書	1. 田崎義昭；ベッドサイドの神経の診かた改訂18版，南山堂 2. 能登真一；標準作業療法学 作業療法評価学 第3版，医学書院 3. 津山直一；新・徒手筋力検査法 原著第10版，エルゼビアジャパン 4. 岡庭豊；病気がみえる vol7 第2版，脳・神経，メディックメディア		
参考書	基礎運動学（医歯薬出版） 関節可動域測定（協同医書） ROM測定 第2版（三輪書店）		
評価方法	筆記試験 70点〔期末試験：60点，小テスト：10点〕 実技試験 30点〔中間実技試験：15点，期末実技試験：15点〕		
授業時間外の学習	解剖学と生理学の復習、評価実技の基礎知識について自宅学習		
履修上の留意点	実技実施時は動きやすい服装を着用すること。 講義以外時間で実技テストを行う。		
担当者の実務経験	病院で作業療法に従事		

授 業 要 項

令和5年度

科目名	神経障害作業療法治療学Ⅰ				担当者	棚瀬 智美 平松 敦子 野口 真由			
学 年	2年	学 期	前期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	疾患の病態について学び、障害像と作業療法における介入について理解する。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 身体機能作業療法について	・作業療法のプロセスについて説明できる。 ・身体機能作業療法のアプローチと治療理論について理解できる。	平松
	2 脳血管障害について	・脳血管障害の病態について説明できる。 ・脳血管障害の障害像と機能的予後について説明できる。	平松
	3 脳血管障害の評価について	・対象者の生活機能障害を、ICFに基づいて説明できる。	平松
	4 脳血管障害の作業療法について	・急性期・回復期・維持期における作業療法の目的とプログラムを説明できる。	平松
	5 頭部外傷の作業療法について	・頭部障害の病態・症状・障害像について説明できる。 ・頭部外傷の評価および作業療法について説明できる。	棚瀬
	6 脳血管障害に対する作業療法の実践	脳血管障害の症例を通して、評価から治療までの作業療法の一連の流れを理解し、説明できる。	野口
	7 パーキンソン病の作業療法	パーキンソン病の病態と症状について説明できる パーキンソン病の障害像について説明できる 作業療法の目的、評価項目、介入方法を説明できる	棚瀬
授業形態	講義、演習		
教科書	作業療法学ゴールドマスターテキスト 身体障害作業療法学 第3版 身体機能作業療法学 協同医書出版 病気がみえる vol7.脳・神経 メディックメディア		
参考書	メディカルスタッフのための神経内科学 脳卒中 基礎知識から最新リハビリテーションまで 医歯薬出版		
評価方法	棚瀬(26点): 期末試験(筆記試験) 平松(60点): 期末試験(筆記試験) 野口(14点): レポート		
授業時間外の学習	解剖学、生理学、運動学で既に学んだ知識を基に展開するので、必ず予習(復習)をして講義に臨むこと。		
履修上の留意点	評価方法等について授業内でオリエンテーションを行うため、留意すること。		
担当者の実務経験	病院で身体障害領域の作業療法に従事		

授 業 要 項

令和5年度

科目名	運動器障害作業療法治療学				担当者	永田 明義 稲垣 慶之 濱川 麻美 平松 敦子			
学 年	2年	学 期	前期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	作業療法の対象となる主な整形外科疾患に対しての評価と治療のポイントを理解する。 手外科領域における作業療法に必要な基礎知識を学ぶ。 主要な疾患の特徴を理解し、治療につなげるための基礎を学ぶ。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 主な対象疾患とその病態	各疾患の原因・治癒過程について学ぶ。	永田
	2 治療の原則	喪失した機能の回復について学ぶ。 二次的合併症の予防について学ぶ。	永田
	3 手の機能解剖 手外科領域における評価	ハンドセラピーに必要な機能解剖を理解する。 治療につなげるために必要な手外科特有の評価法について説明できる。	稲垣
	4 手外科領域における治療 スプリント療法	解剖学的知識を理解した上で、主要な疾患の治療法について説明できる 治療学の一方法としてのスプリント療法の基礎知識を理解する。	稲垣
	5 骨折について	骨の構造・リモデリングについて理解し説明することができる。 骨折の分類、治癒過程、症状、診断、初期治療、合併症について理解および説明することができる。 上肢骨の主な骨折部位とその特徴について理解および説明することができる。 OT評価・治療について項目をあげ説明することができる。	平松
	6 大腿骨頸部骨折、胸椎・腰椎圧迫骨折について	大腿骨頸部骨折、胸椎・腰椎圧迫骨折について説明することができる。 大腿骨頸部骨折、胸椎・腰椎圧迫骨折の病態・症状・検査所見・治療について理解し説明することができる。 作業療法評価・治療について項目をあげ説明することができる。	平松
	7 関節リウマチについて	関節リウマチについて説明することができる。 関節リウマチの病態・症状・診断・検査所見・治療について理解し説明することができる。 作業療法評価・治療について項目をあげ説明することができる。	濱川
	8 熱傷について	熱傷について症状・障害を説明することができる。 熱傷について適切な作業療法評価内容を説明することができる。 作業療法の目的、指導、援助内容、方法、手段について説明することができる。	平松
授業形態	座学(講義)、パワーポイント 対面でのスライドによる講義(場合によっては、Web上での遠隔講義)		
教科書	作業療法学ゴールドマスターテキスト 身体障害作業療法学 第3版		
参考書	整形外科テキスト 改訂第5版 上羽康夫:手 その機能と解剖(稲垣) 斎藤和夫編:動画で学ぼうPT・OTのためのハンドセラピー		
評価方法	筆記試験末試験(筆記試験):永田13点、稲垣27点、濱川13点、平松47点		
授業時間外の学習	講義後は1時間程度の復習を行うこと。		
履修上の留意点	上記の内容について解剖学・生理学・運動学などの基礎知識を復習しておくこと。 授業内で「ここがポイントです」と伝えた部分はしっかり押さえて下さい		
担当者の実務経験	病院で作業療法に従事		

授 業 要 項

令和5年度

科目名	精神障害作業療法治療学				担当者	水野 準也 梅田 雄嗣			
学 年	2年	学 期	前期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	45

教育目標 [一般目標]	精神科医療および作業療法の歴史・変遷を学ぶ。そして、精神障害分野の作業療法における治療構造をもとに、回復状態に応じた作業療法を学ぶ。また、精神障害分野の作業療法に関連する法規を学ぶ。 精神疾患・障害特性に応じた精神科作業療法の治療・援助について理解する。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 精神科医療および作業療法の歴史・変遷	精神科医療および作業療法の歴史を説明できる。 精神障害分野におけるリハビリテーション・作業療法の概要を説明できる。	水野
	2 作業療法の治療構造	精神障害分野における作業療法の治療構造について説明できる。 ・概要 ・構成要素①対象者 ・構成要素②作業療法士 ・構成要素③作業活動 ・構成要素④集団・場 ・構成要素⑤時間	水野
	3 回復状態に応じた作業療法	対象者の回復状態に応じた作業療法の役割が説明できる。 ・急性期 ・亜急性期 ・回復期前期・後期 ・維持期、緩和期	水野
	4 精神障害分野の作業療法に関連する法規	精神保健福祉法について説明できる。 医療観察法について説明できる。	水野
	5 統合失調症	統合失調症の疫学、症状、病型、回復過程について理解し、説明することができる。 統合失調症の回復過程に応じた作業療法の目的や治療について説明することができる。	梅田
	6 気分障害	気分障害(うつ病、双極性障害)の疫学、症状について理解し、説明することができる。 気分障害の回復過程に応じた作業療法の目的や治療について説明することができる。	梅田
	7 神経症	神経症の概念、分類、特徴について理解し、説明することができる。 神経症の回復過程に応じた作業療法の目的や治療について説明することができる。	梅田
	8 パーソナリティ障害	パーソナリティ障害の概念、分類、特徴について理解し、説明することができる。 パーソナリティ障害に対する作業療法の目的や治療について説明することができる。	梅田
	9 摂食障害	摂食障害の概念、分類、特徴について理解し、説明することができる。 摂食障害の回復過程に応じた作業療法の目的や治療について説明することができる。	梅田
	10 物質関連障害(アルコール使用障害を中心に)	アルコール使用障害の概念、分類、特徴について理解し、説明することができる。 アルコール使用障害の回復過程に応じた作業療法の目的や治療について説明することができる。	梅田
	11 発達障害、知的障害	発達障害、知的障害の概念、分類、特徴について理解し、説明することができる。 発達障害、知的障害に対する作業療法の目的や治療について説明することができる。	梅田
12 認知症	認知症の概念、分類、特徴について理解し、説明することができる。 認知症に対する作業療法の目的や治療について説明することができる。	梅田	
授業形態	講義 グループ討議		
教科書	山根 寛： 精神障害と作業療法 治る・治すから生きるへ 新版(三輪書店) 富岡 詔子・小林 正義： 作業療法学全書 改訂第3版 作業治療学2 精神障害(協同医書出版社)		
参考書	適宜紹介する。		
評価方法	期末試験(筆記試験)；水野51点、梅田49点		
授業時間外の学習	水野：単元ごとに行う確認テストを活用して、授業後は授業内容を元に主体的に復習を行うこと。		
履修上の留意点	水野担当の授業については、単元ごとに確認テストを予定している。詳細については、初回時にオリエンテーションを行う。		
担当者の実務経験	病院で精神障害領域の作業療法に従事		

授 業 要 項

令和5年度

科目名	日常生活活動学				担当者	濱川 麻美			
学 年	2年	学 期	前期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	身体障害領域においてADLの維持・改善を目的としたOTを実施するために、必要な基礎的な知識を身につける。また、その知識をもとにOTに必要なADLの基本的な考え方を身につける。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 日常生活活動の概念・意義・範囲	・ADLの歴史を学びADLの概念や範囲について理解できる。 ・ADL・IADL・QOLの定義について説明できる。 ・ADL・IADLの項目をあげることができ、内容について説明できる。	濱川
	2 日常生活活動と障害との関係	・日常生活活動を遂行するための身体機能、影響因子を説明できる。 ・日常生活活動の障害について説明できる。	濱川
	日常生活活動評価について 3 ①概要 ②方法(動作分析) ③方法(バッテリー)	・評価の目的を理解できる。 ・評価方法について説明できる。 ・健常者の基本動作(起居動作)の動作分析評価の視点を説明できる。 ・健常者のADL項目について動作分析評価の視点を説明できる。 ・FIM/Barthel indexの特徴について説明できる。	濱川
	4 脳血管障害のADL	・障害特性に応じた評価におけるポイント、ADL訓練における留意点について理解および説明できる。 ・ADL・IADLの各項目について、動作の工程を理解し説明できる。	濱川
	5 関節リウマチのADL	・障害特性に応じた評価におけるポイント、ADL訓練における留意点について理解および説明できる。 ・ADL・IADLの各項目について、動作の工程を理解し説明できる。	濱川
授業形態	講義、演習、グループワーク		
教科書	新版日常生活活動(ADL)第2版 医歯薬出版株式会社 脳卒中の機能評価 SIASとFIM[基礎編] 金原出版株式会社		
参考書	改訂第2版 作業療法学 ゴールドマスター・テキスト身体障害作業療法学/メジカルビュー社 クリニカル作業療法シリーズ 身体障害領域の作業療法/中央法規 作業療法学全書[改訂第3版]第4巻 作業治療学1身体障害/協同医書出版社 改訂第2版 リハ実践テクニック 関節リウマチ/メジカルビュー社		
評価方法	期末試験(筆記試験); 濱川 80点 レポート課題; 濱川 20点		
授業時間外の学習	レポートの作成、生活環境論と運動器障害作業療法治療学の復習		
履修上の留意点	各自必要となる参考書(教科書)や資料を持参して授業に臨むこと。		
担当者の実務経験	病院で作業療法に従事		

授 業 要 項

令和5年度

科目名	身体障害作業療法治療学演習Ⅱ				担当者	棚瀬 智美 平松 敦子			
学 年	3	学 期	前期	学 科	作業療法学科	単位数	2	時間数	45

教育目標 [一般目標]	身体障害分野の対象者に対する作業療法の特性を生かした治療・指導・援助の実践における注意点を理解する。また、模擬症例を通して対象者の全体像を把握し、焦点化、目標設定を行った上で、治療計画の立案まで行う過程を理解を深める。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 イントロダクション	疾患に合わせた障害像、評価項目を列挙し説明することができる	平松 敦子
	2 症例検討①	医療における急性期の段階を説明できる ICUの状況について説明することができる 画像所見について説明することができる 障害状況に合った評価計画を立案することができる	平松 敦子 棚瀬 智美
	3 症例検討②	医学的情報に基づき、障害像をイメージし説明することができる 障害状況に合った評価計画を立案し説明することができる 作業療法結果から身体構造・心身機能について説明することができる 障害状況からADLの評価結果を説明することができる	
	4 症例検討③	一般・医学的・社会的情報から障害像をイメージし、評価計画を立案し説明することができる 作業療法評価結果からADLを分析し、問題点を列挙することができる 治療目標(長期・短期)を設定し、OTプログラムを考案することができる	
	5 症例検討④ 内部障害を伴った症例	症例の病態と障害像を説明できる。 問題点を列挙できる。 治療目標(長期目標・短期目標)を設定できる。 作業療法プログラムを立案することができる。	
	6 症例検討⑤ 高次機能障害を伴った症例	症例の病態と障害像を説明できる。 問題点を列挙できる。 治療目標(長期目標・短期目標)を設定できる。 作業療法プログラムを立案することができる。	
	7 作業療法評価の実施	障害状況に合った評価の手順を考案して実施することができる	平松 敦子
授業形態	講義、演習(症例検討・文献抄読)、グループ討議および発表		
教科書	メディカルスタッフのための神経内科学(医歯薬出版) 標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学(医学書院) 脳卒中 基礎知識から最新リハビリテーションまで(医歯薬出版) 病気がみえる 循環器、呼吸器(メディックメディア)		
参考書	適宜提示する		
評価方法	症例ごとの課題提出で採点		
授業時間外の学習	授業前には関連科目の復習を行い、授業後には行動目標が達成できるよう復習を行うこと。		
履修上の留意点	既習内容を十分に確認して授業に臨むこと		
担当者の実務経験	病院で身体障害の作業療法に従事		

授 業 要 項

令和5年度

科目名	高齢期作業療法治療学演習				担当者	青山 幸恵 奥村 智子 棚瀬 智美 水野 準也			
学 年	3	学 期	前期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	高齢期作業療法のプロセスを理解し、高齢期の特徴に応じた支援内容について学ぶ。 高齢期リハビリテーションにおける実践技術の1つとしてレクリエーションを実施する為の知識、技術を身につける。 認知症高齢者の障害像を理解し、その人らしさを引き出し活用するアプローチ方法についての知識を身につける。 摂食嚥下の機能及び障害に関する基本的事項、評価や検査、訓練について理解し、摂食嚥下リハビリテーションのチーム医療において、OTとしてどんな介入方法があるのか基本的知識を身につける。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 高齢期作業療法の実践課程 評価、目標設定、治療計画、実施	高齢期作業療法の実践課程(評価～治療実施)について理解することができる。	棚瀬 智美
	2 症例検討①(高齢期)	一つの症例を基に、回復期リハビリテーション、介護老人保健施設、在宅生活における支援における作業療法の役割や関りについて理解し説明することができる。	
	3 症例検討②(認知症)	症例を通し、認知高齢者の障害像を理解し説明することができる。 症例の障害像や人となりに合わせたアプローチ法を考え、その効果について理解し説明することができる。	
	4 高齢者における整形外科・脳外科疾患	高齢者に多い整形外科疾患と脳外科疾患の原因について理解し説明することができる 高齢者の整形外科疾患・脳外科疾患後に対するOTプログラムの考え方と予防目的のリハビリテーションについて理解し説明することができる	青山 幸恵
	5 レクリエーション総論	レクリエーションの定義、OTでのレクリエーションの対象および目的を理解することができる。 レクリエーションを実施する上での、構成、評価、レクリエーション計画の方法を理解することができる。	水野 準也
	6 レクリエーション計画	対象者を想定したレクリエーション計画書の作成およびレクリエーションの準備をすることができる。	水野 準也
	7 レクリエーション実習	対象者を想定したレクリエーション計画に基づいてレクリエーションを遂行することができる。 レクリエーション実施後、グループおよび自己の振り返りを行うことができる。	水野 準也
8 ・摂食嚥下とは何か ・摂食嚥下障害の病態、原因、検査・評価、リハビリテーションについて	・摂食嚥下障害に関係する諸器官の解剖・生理について理解し、基本的なメカニズムについて説明できる。 ・摂食嚥下機能の検査、診断、評価からリハビリテーション方法の概要、チーム医療について理解する。	奥村 智子	
授業形態	講義 演習 レクリエーション実習		
教科書	標準作業療法学 高齢期作業療法学 医学書院		
参考書	適宜紹介する。		
評価方法	レポート:棚瀬(45点)、水野(33点)、青山(15点)、奥村(7点)		
授業時間外の学習	授業前には関連科目の復習を行い、授業後には行動目標が達成できるよう復習を行うこと。		
履修上の留意点	高齢期作業療法治療学、地域作業療法学等の履修内容が基礎となっていることを理解し講義に臨むこと。		
担当者の実務経験	病院での作業療法および言語聴覚療法に従事		

授 業 要 項

令和5年度

科目名	職業関連活動				担当者	林 厚志 梅田 雄嗣			
学 年	3	学 期	前期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	人にとっての職業の意味を知り、障害者の職業リハビリテーション概念、理論を学ぶ。 障害者の就労制度や就労支援について学ぶ。 職業関連活動における作業療法士の役割について学ぶ。 精神障害者に対する就労支援について学ぶ。 職業リハビリテーションサービスの実際を知る。中途障害者の職業復帰の実際を知る(事例で学ぶ)。就業支援サービスにおける作業療法士の役割を考える。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 職業について	・人にとって職業とはいかなる意味のある行為なのかを理解し、説明できる。	梅田 雄嗣
	2 障害者の就労について	・障害者にとっての職業の意義について説明できる。 ・障害者の就労制度について説明できる。	梅田 雄嗣
	3 就労支援	・就労支援についての基本的な考え方を説明できる。 ・職業関連活動における作業療法士の役割を理解し、説明できる。	梅田 雄嗣
	4 就労支援における職業評価	・職業評価の目的と方法について理解できる。 ・職業評価体験を通じて、就労支援における作業療法の役割を理解できる。	梅田 雄嗣
	5 精神障害者の障害特性 精神障害者に対する作業療法アプローチ 就労支援の実際	・精神障害者における職業の意味や難しさについて理解できる。 ・精神障害者に対する就労支援プログラムの紹介を通じて、作業療法士の視点、役割、アプローチ方法について理解できる。	梅田 雄嗣
	6 総合拠点方式の就労支援サービスを知る	名古屋市総合リハビリテーションセンターを題材に、医療、福祉(生活支援)、労働(就労支援)の関係性、総合リハビリテーションの一端を説明できる。	林 厚志
	7 事例で学ぶ支援のノウハウ	高次脳機能障害を主症状としたケースの就職、復職支援について、総合リハビリテーションからジョブコーチ支援に至るまでの基本プロセスを説明できる。	林 厚志
	8 職業リハビリテーション(職リハ)の基本戦略	・人間システム・社会システムを理解し説明できる。 ・復職支援の前提として、職業の定義を説明できる。 ・職業リハの基本戦略について説明できる。	林 厚志
	9 障害者雇用に関する社会資源	・法定雇用率や雇用促進法について説明できる。 ・就労支援に関わる主な支援機関、事業について説明できる。	林 厚志
10 就業支援サービスにおける専門職の役割	・就業支援に関わる専門職を「基本的な支援を行う立場」と「二次的・専門的支援を行う立場」を説明できる。 ・就労支援におけるOTの役割について説明できる。	林 厚志	
授業形態	講義、演習、ビデオ放映(パソコン上で再生)、パワーポイント、ディスカッション		
教科書	作業療法学全書[改定第3版] 第12巻 職業関連活動 平賀昭信・岩瀬義昭編集 協同医書出版社		
参考書	適宜紹介する。配布資料		
評価方法	期末試験(筆記試験)；梅田(85点) 学習後レポート；林(15点)		
授業時間外の学習	梅田：就労支援の概念について理解が深められるよう、各回の授業後に30分程度復習を行うこと。 林：講義後は配布資料や講義・ディスカッション内容をもとにA4×1～2枚程度のレポートを作成すること。		
履修上の留意点	梅田：2年次の精神障害作業療法治療学・精神障害作業療法評価学で学習した内容と、3年次の地域作業療法学演習で学習する内容が関連するので、整理して授業に臨むこと。 林：講義までに学習した「就労支援」に関する内容を復習しておくこと。ディスカッションでは積極的に発言する(一人ひとつ以上は意見を出す)とともに、役割分担し、全員でチームの活性化を意識すること。		
担当者の実務経験	病院での作業療法に従事、対象者支援に関する実務経験あり		